

ふじみサラダボール子育て情報



「自我の芽生え」
令和7年6月18日号
板橋富士見幼稚園



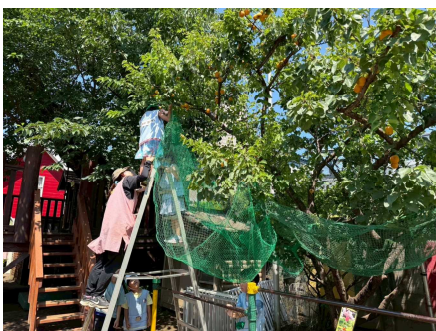
子どもが泣き騒ぐとき

人間は、泣くことを授かって生まれてきます。そして生まれた瞬間に泣くことを始めます。発達的には反射的泣き声と言い、生理的刺激によって泣きます。やがて脳が人間として働き始めると、空腹や不快感に対して泣いたり、さらに発達が進み自己欲求が高まると、その欲求を満たすためにも泣いたりするようになってきます。親の手を借りなければ生きていけないため、乳幼児の泣くという行為は、持って生まれた生命維持のための依存性によるものがほとんどです。

そして成長するにしたがって、自我が芽生え始め、自分と他者を区別できるようになってきます。次第に自己欲求も高まり、自分の思い通りに事が運ばないときや、自分の思いに反する状況の時に、大声で怒鳴り散らしたり大泣きしたりという手段を使うことを学習していきます。

さて、こうなってくると親と子は「泣きわめき」を介して、せめぎ合いの始まりです。特に年齢が増してくると、親や周囲の人や環境を意識した泣きに発展し、自己の主張を誇示しようとしてきます。

こんな時、皆さんはどうされますか。教師はこんな時、まずは背中をさすって手を握り、「落ち着いて」と何度も声掛けするところから始まります。そして、泣いて主張している事を耳で受け止めながら、「ちょっと見て!」と惹きつける口調で他の事へ気をそらせてあげるようにしていきます。何度か気をそらせる声掛けをすると、次第に自己の主張している事が薄れ始め、落ち着きを取り戻してきます。このように、心のこだわりを受け止めつつ、気をそらせてあげることを心がけてみてください。ほとんどは、この「気をそらす」方法で、解決できます。泣き止んでくれた時には、ほっとするとともに、親子の心が繋がったのを感じることができます。



【杏の収穫祭に向けて】
園庭の杏が色づき、熟した杏が
少しずつ落ちてきました。
落ちた杏が傷まないように
ネットを掛けてみたり
洗って刻んで味わったりと、
杏との関わりを楽しんでいます。

